

2. 原爆・湯川

広島原爆ドーム。資料館は高校の修学旅行で行きました。壁(コクリート?)に突きさされたガラスの破片、階段に残された人の靴を実際に見ました。本当に悲倫ぞ本当に現実におきたことなのかと思、てしまいました。

私は小学5年生の時、インターネットで広島へ原爆について勉強したいけりがあり、安からという理由で友達と興味本位で行きました。資料館に行、て当時の写真を、その場の残、てい石物等たくさん見してきました。ヤケニげた三輪車、がとて印象に残っています。老人ホームにも行、て当時の話も聞きました。思い返すと心はく教があがります。

核兵器などのおと、今日の地球上の科学、技術では、必要以上に莫大なエネルギーを持つ兵器を容易に作り出しが出来るため、争いと一ト言、ても、危険な方、くはらんでくる部分は大きいと思う。

湯川秀樹さんの講義にうときました。湯川さんの講義を今の全世界の人達にも見てもいい、聞、りておたりと思、りました。

被曝した方の写真がとて印象に残りました。皆が使う電、のたに特定の人のだけ、被害を受けなければいけないのはとて不公平だし、とらなるのなら原子力発電を利用しないべきだと思、りました。私は西日本出身なので地震の影響もほとんどなく、正直原爆事故のことあまり深く考、えていませんでした、が、授業をきいていてもっと関、心を持つべきだと思、りました。物理の授業からこんな社会的なこと、にまで結び付いて驚、きました。私は今まで1度も広島や長崎に行、たことがない、ので、是非長期休暇に行、こうと思、いました。

被爆園、からここの核のおとしを伝えていか、ないといけ、ないし、それを伝えていくのは私たち若い世代、のび、"めんど、くさい"や"ア、ロク、に、く、ない"という理由で勉強、しないとい、うのは無責任、な、こ、と、な、ら、ず、と、改、めて、思、います。

与まじ歴史も勉強、して、思、い、こ、は、"過去に、興味、ない、で、した。それが、全くの、間違、い、で、は、私は、高校、時に、行、つ、て、長崎、の、原爆、地、で、行、つ、つ、した、"

私は広島原爆資料館や原爆ドームに行、た、こ、ろ、が、あ、る、が、資料館、に、あ、る、悲、惨、な、資料、は、その、時、の、私、は、た、だ、"苦、み"とい、う、気持ち、だけ、で、こ、こ、も、資料、を見、る、に、資料館、を、ホ、イ、に、ま、つ、つ、た、。しか、し、今日、の、講、義、を、通、して、人間、が、つ、く、た、もの、の、責任、は、人間、が、と、ら、な、け、れ、ば、な、ら、ない、とい、う、こ、と、を、考、え、わ、か、ら、ない、が、ら、や、ら、ない、の、で、は、な、く、それ、以前、に、私、たち、には、それ、を、勉強、する、義務、が、あ、る、と、思、った、。

修学旅行で原爆資料館に行、た、こ、ろ、が、あ、る、。教科書、で、は、載、つ、て、い、ない、す、さ、ま、じ、い、写、真、は、ど、こ、を見、て、ショック、を受け、ました、。

軍械の発射や、被爆の映像をみて、改めてすさまじいもの、だ、とい、う、こ、と、を、実感、した、。核、や、原爆、の、被害、は、日本、でも、あ、る、の、に、私、は、た、か、な、か、身、近、に、感、じ、る、こ、と、が、で、き、な、か、た、の、だ、が、私、が、こ、う、い、た、被害、や、現状、に、つ、いて、不、知、な、い、こ、と、は、多、く、だ、と、思、った、。

核兵器、の、あ、つ、つ、と、す、る、学、校、教、育、で、は、こ、と、取、り、入、れ、て、い、く、こ、と、な、ら、ない、か、と、思、い、ま、す、。核兵器、で、の、責任、は、決して、あ、つ、つ、は、な、ら、ない、が、一度、あ、つ、つ、な、ら、ず、に、核、兵器、で、の、危険、性、被害、など、学、校、家庭、など、で、教、育、が、あ、つ、つ、と、改、めて、考、え、さ、せ、が、あ、つ、つ、な、ら、ず、。

これ、に、し、て、も、広島、の、映像、を、見、て、か、つ、多、く、の、科学者、が、暑、い、た、の、は、意外、で、した、。本当に、何、も、知、り、ず、に、兵器、の、開発、を、し、て、い、る、の、で、あ、る、。

今日、観、た、湯川、秀、樹、さん、の、映像、は、と、て、も、衝撃、的、な、もの、で、した、。自分、たち、が、何、を、学、ん、で、い、る、の、か、とい、う、よ、う、な、部分、に、つ、な、る、もの、は、も、つ、と、早く、知、り、た、か、つ、た、で、す、。

他のコメントにもあつたように、教育を考、える必要、は、あ、る、と、思、い、ま、す、。幼、い、う、ち、から、人間、の、行、つ、て、き、た、残、虐、な、行、為、を、見、せる、必要、は、な、い、で、し、よ、う、。でも、それ、を、知、ら、ない、ま、ま、社会、に、出、て、有、権、者、と、な、り、判断、する、の、は、問題、で、す、。

皆、さん、の、場合、既、に、義務、教育、は、終、わ、つ、て、い、ま、す、。自分、で、講、義、を、と、る、の、か、本、を、読、む、の、か、学、ぶ、う、と、し、な、け、れ、ば、も、う、誰、も、教、え、て、く、れ、ま、せ、ん、。

3. iPS

iPS細胞も開発し、ノーベル賞を取った時、何人、何人にとて、
良、これが開発されたと思、いました。何も知らないで種柄いては、
と気づかされました。

国の方針を決めるのは、民主主義国家においては 間接的にしても国民自身なので、
国民一人ひとりの 影響力の大きさが少しわかった気がしました。
山中教授のコメントは、「皆さんの知恵が欲しい」あるいは、「助けてほしい」
ということだと、私は理解しました。自分たちだけの手にはおえないので、皆さんで決めてほしいということだと思いました。

4. 福島・その他

私は、小さい頃 父に「もし、日本が戦争するとしたら 福島がこうげきさか
せすか」といわれたのを覚えている。その時は理解するどころか「お父さん、
2011年に地震によって気は誰か思わなかったこと。地震によって原発・核の怖さ
学んだわけだが、その怖さを知らなかった時、既に知っている福島の人々のうたえをこの
ようにしていたのは事実である。私は福島出身で、周りの環境はもちろ、私ののとち
は人のうたえで、はたこともあり、私は、少し知識の中にも、原発についてはとて
く詳しい思いがある。だから、湯川さんを始め、いろんな科学者のうたえと努力を
きちんと理解すべきである。勉強しなさいと行動するの危険がある、という言葉
はじめて実感した。今回の授業は私にとて複雑な気持ちだったが、他の人が
理解できるよい機会 だったのではないだろうか？

ここに書かれた悔しさの全てを理解できるだけの想像力を持ちたい！4年生で、
卒業後、福島に住んで福島の人々と共に情報を発信しようとしている学生もいま
す。私たちは、色々な努力をしながら理解する必要があるのではないのでしょうか。
想像力が足り なく耳にするのはチェルノブイリの子供たちの首に鎖の首輪のようなものがある事。
ないと、他国で放射線の影響で子供は甲状腺がんになりやすく、当時の医療技術の問題
のことを自分の 事か何なのかは知らないけれど、手術のあとで鎖のような傷あとが、
人の細胞を破壊しあるは悲惨なことになるかもしれないと人が簡単に
作れるものか」ということそれが10月年スーパで自分の将来にも影響が
出るとして恐怖を感じました。私は人間が絶滅すれば良いほどは
思いませんが、この地球に生きる生物を人間が開発したもので一瞬ど
壊してしまうことが、怖いこと。しかもそれが戦争やどちらの国
が強いほど、そういう人間の動きでこんな悲惨な出来事が起きてしまうこと
が怖いこと。

iPS細胞の核 まで人にとってありあまる力だを感じた、
「知る」ということで自分が「社会や世界に変化をも
たさうなす」、知るだけじゃいけない」

iPS細胞のことでニュースで見、化学の進歩はすごいな
としか思わなかった。今日の講義を聞いて、私は本当に知識
が足りないな

このようなことは口外するのはよくないかもしれませんが、私の父は原子力発電
に大きく関わった仕事をしています。今では給料も前よりも半分になり、
今現在、生活に苦しめられています。正直、自分が大学に通わせていただいている
ことがそれにまた負担をかけていると考えると、心が痛めます。先生のおっしゃ
っていた原子力を使うことを認めたのは誰かと考えると一番不満を言、ている国民です。
そのせいで、困っている人や今の状況で苦しんでいる人など本当に理不尽で
誰かが損すれば、損する人もいます。どうすれば、誰もか納得する日本が作れるの
でしょうか。考えなければならぬ大事な課題だと考えます。核とまでは
人類に地球に大きな影響があるが、今日の授業で痛感させられました。

日本では東京電力は叩かれまくります。しかし、海外では、最悪の
事故を防ぐために、現場で頑張った人々を Fukushima 50 と呼んで賞
賛しました。現場で頑張る人の努力には、私も心から感謝したいです。
東京電力に残念な部分があったのは間違いありません。しかし、国
策として進めた原発を支持してきたのは、紛れもない、私たち国民で
す。「誰かを悪者にする事で自分が安心したい」というのは普遍的
な人間の傾向です。国民である私たち自身の責任のとり方を、私たち
は考える必要があると思います。

そもそも、人が生きていく為には作り上げてきたものが、結果的に人を死に
ました。作り上げてきた 私達がコントロールできなくなり、苦しむ。
あつはいつかサイクルだと思、いました。結局は人間が一番怖い。その通り。
せの中で、一番恐、るべきは人です。原子爆弾はどのように発明されたのか。
これが技術は進歩するのと同じように、それともこのままであるべきなのでしょうか。
技術を用いて人を傷つけるのか、それとも、私たちの人生を豊かにするのか。
それは私たち次第です。私たちが学ばなければ道を誤るのは確実です。
無知は、知らずに自覚がな、怖いものだと思、いました。 ←この言葉いただきます！